

新たな時代 一段の飛躍

県内の多くの企業が仕事始め、経営トップが訓示した。岐阜市神田町、十六銀行本店(撮影・堀尚人)



仕事始め

県内の多くの企業は4日、新年の仕事始めを迎えた。「改革の成果を新たな時代につなげよう」「二歩も三歩も進んでいきたい」。各企業のトップは、年頭訓示で一段の飛躍の年にしようという意気込みを語った。主な企業経営者の訓示をまとめた。

県内企業 トップ訓示

サービス業で一步前へ

たいかを一歩一歩踏まえながら、銀行業以外のサービス業を考へていく。サービス業として一歩前へ。これがわれわれが勝ち残っていく一手になる。皆さんと共に一歩のみならず、場合によっては二歩、三歩と進んでいきたい。



「脱・銀行」を標ぼうしているOKBグループが、地域の金融機関としてだけでなく、地域のサービス業として、新たな展開を見だしていく年にしていきたい。お客さまが、地域が、何を考え、どうしていきたいか。

大垣共立銀行
土屋嶮頭取

改革の成果をつなげる

変化の激しい時代でも地元である岐阜県と愛知県の経済発展に寄与することが求められており、その期待に応えていくことが当行の使命。本年は第14次中期経営計画の最終年度となる重要な年であり、証券子会社の開業も控える飛躍の年。持続可能なビジネスモデル確立への取り組みを加速させ、お客さまから必要とされ、お客さまとともに成長する金融グループの実現と地域経済発展に向けて、改革の成果を新たな時代につなげていく。



変化の激しい時代でも地元である岐阜県と愛知県の経済発展に寄与することが求められており、その期待に応えていくことが当行の使命。本年は第14次中期経営計画の最終年度となる重要な年であり、証券子会社の開業も控える飛躍の年。持続可能なビジネスモデル確立への取り組みを加速させ、お客さまから必要とされ、お客さまとともに成長する金融グループの実現と地域経済発展に向けて、改革の成果を新たな時代につなげていく。

十六銀行
村瀬幸雄頭取

不連続への挑戦で打破

これを肝に銘じ、地域との共存共栄、フェーストゥフェース営業、お客さま視点の理念を堅持しつつ、「不連続への挑戦」をキーワードに、三大改革の実践(役職員の意識改革、業務改革、営業改革)で現状打破に挑戦していく。



超低金利状態の長期化、マーケット環境の不安定化、フィンテックの進展など外部環境の変化が当金庫へ及ぼす影響は日に日に大きくなっている。未来の

東濃信用金庫
市原好二理事長

ニーズの変化 迅速対応

え、価値ある商品やサービスを遅滞なく提供するため、お客さまに寄り添い課題解決に向けた具体的な目標を作り、迅速に対応すること、さらに業務効率化を図り、個々の能力を向上させることで高いパフォーマンスを発揮してほしい。



変化が激しく、既存の発想が通用しない時流の中、生き残りを図るためには、信用金庫の原点であるお客さまとの対話を通じて適切な金融仲介機能の発揮が求められる。お客さまのニーズの変化を的確に捉え、価値ある商品やサービスを遅滞なく提供するため、お客さまに寄り添い課題解決に向けた具体的な目標を作り、迅速に対応すること、さらに業務効率化を図り、個々の能力を向上させることで高いパフォーマンスを発揮してほしい。

岐阜信用金庫
住田裕綱理事長

競争に勝ち 再編の軸に

では業界第3軸を担う決意表明をした。われわれは再編の軸になりきれぬ。競争に勝ちきれぬ。社会構造の変化に対し、新たなビジネスを生み出せるか。それを支えるのが組織であり人材だ。課題は絞られている。



多様な年齢層の人数は最多が72歳で、最少12歳の2倍という。まさに逆ピラミッドの構造だ。時代が変化すると、業界再編は必ず起る。昨年、ホームセン

パローホールディングス
田代正美会長兼社長

課題解決型営業を深化

提案でお客さまの資産形成と事業の成長に貢献できるようにしていきたい。平成はバブルがはじけ縮み志向の時代だったが、迎える新時代は日本経済にとっても職員にとっても新たな成長トレンドに向かう年となるよう期待したい。



創立95周年を迎える節目の年となる。業務の見直しなどでお客さまとの接点強化を図り「課題解決型営業」に注力してきたが今年はさらに深化させたい。お客さまの課題把握で強みを引き出し、付加価値の高い

大垣西濃信用金庫
栗田順公理事長

安全への熱い思い結集

「心に響く接客サービスを」に強く意識して取り組んでほしい。来年は大河ドラマや五輪などで岐阜を日本がますます活気つく。安全とおもてなしの心というわれわれの役割と強みを認識し、今年を将来につなげる飛躍の年にしたい。



当社の目指す方向は一つ「安全第一」。昨年の社長就任以降、まず運転士の脳ドック受診制度、最新安全設備の導入や人手不足対応に取り組んだ。今年は全社員が安全への熱い思いを結集させてほしい。そして

岐阜乗合自動車
黒川公男社長

付加価値高め収益改善

では、各事業における攻守領域を明確にし、付加価値を高めることで収益改善、労働時間短縮につなげていく。役員、従業員の知恵を結集させ、全員で事業の付加価値を高め、その恩恵を従業員に還元する好循環を築いていく。



昨年のテーマ「たくましく、そしてやさしく」に再挑戦し、働き方改革を推進する年。従業員の処遇改善を進め、安心して長く働ける「やさしい」会社へとする。一方、その原資を確保するため「たくましく」

トーカイ
小野孝二社長